

# 上御殿遺跡発掘調査現地説明会資料

平成 26 (2014) 年 3 月 2 日 (日) / 公益財団法人滋賀県文化財保護協会

私たちは文化財をとおして  
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。



## 調査の概要

公益財団法人滋賀県文化財保護協会では、平成 20 年度より、高島市の天神畑遺跡(鴨地先)と上御殿遺跡(三尾里地先)の発掘調査を行っています。調査は、鴨川広域基幹河川改修事業(青井川)に伴い滋賀県教育委員会と滋賀県高島土木事務所からの依頼により行っています。

平成 25 年度は、4 月から実施しており、古墳時代から平安時代にかけての川跡や古墳時代後期の古墳、奈良時代から平安時代とみられる掘立柱建物などの遺構を確認したほか、国内初となる双環柄頭短剣の鋳型が出土しています。



年代	時代区分	日本の主な出来事	天神畑・上御殿遺跡の主な調査成果
B.C.500年	縄文		縄文時代中期後半(4000年前) 土器棺墓
	弥生	約 2500 年前 稲作始まる。 248 年頃 卑弥呼死す。	弥生時代終末(3世紀前半) 方形周溝墓 双環柄頭短剣の鋳型(弥生時代~古墳時代前期)
300年	古墳	前方後円墳が各地にさかんに 築造される。	古墳時代~平安時代(4世紀~12世紀) 川跡
600年		6C初 継体大王 即位 鴨稻荷山古墳(6世紀)	古墳時代前期(4世紀後半) 竪穴住居 古墳時代前期~中期前半(4~5世紀前半) 木棺墓 古墳(古墳時代後期:6世紀中頃) 古墳時代後期(6世紀後半)の溝
700年	飛鳥	604 年 憲法十七条の制定。 645 年 大化の改新(乙巳の変)。 667 年 近江大津宮へ遷都。	
800年	奈良	710 年 平城京へ遷都。 742 年 紫香楽に離宮を造る。 794 年 平安京へ遷都。 759 年 保良宮の造営。 1016年 藤原道長が摂政となる。	奈良~平安時代初頭(8世紀~9世紀前半) 居宅・倉庫群 祭祀遺物(人形代・馬形代 「守君船人」の墨書人名土器)
1200年	平安		奈良~平安時代(8世紀~12世紀) 掘立柱建物 平安時代後期(10~11世紀) 掘立柱建物など 護岸工事(平安時代後期)
1300年	鎌倉	1192 年 源頼朝が征夷大將軍 となる。	平安時代後期~鎌倉時代初期 馬具(轡:くつわ)
1500年	室町	1336 年 足利尊氏が征夷大將軍 となる。	
1600年	安土桃山	1576 年 織田信長、安土城に移 る。 1582 年 本能寺の変。 1600 年 関ヶ原の戦。	室町時代後期(15・16世紀) こけら經
	江戸	1615 年 大坂夏の陣。 一国一城令。	

※ナナメ文字は、平成 20 ~ 25 年度上半期の  
主な調査成果

## 古墳の概要

今回みつかった古墳は、今年度の調査区の最も北端にあります。

後世の耕作などによって墳丘の盛土は残っていなかったものの、周溝と埋葬主体部を確認することができました。

古墳から60m南側の地点には、北西から南東へ流れる川跡が見つかっています。古墳は、この川に近いやや小高くなった場所に築かれていたと考えられます。

これまでの調査でみつかった川跡からは、古墳時代の土器や木製品など生活道具が数多く出土しています。このことから近くに集落があり、古墳のある場所は、墓域であったとみられます。

古墳は、墳丘の平面形が円形となる円墳です。直径は、約12.8m（墳丘裾を測点）の規模があります。周溝は、幅1.4～1.9m、深さは22cmが残っています。

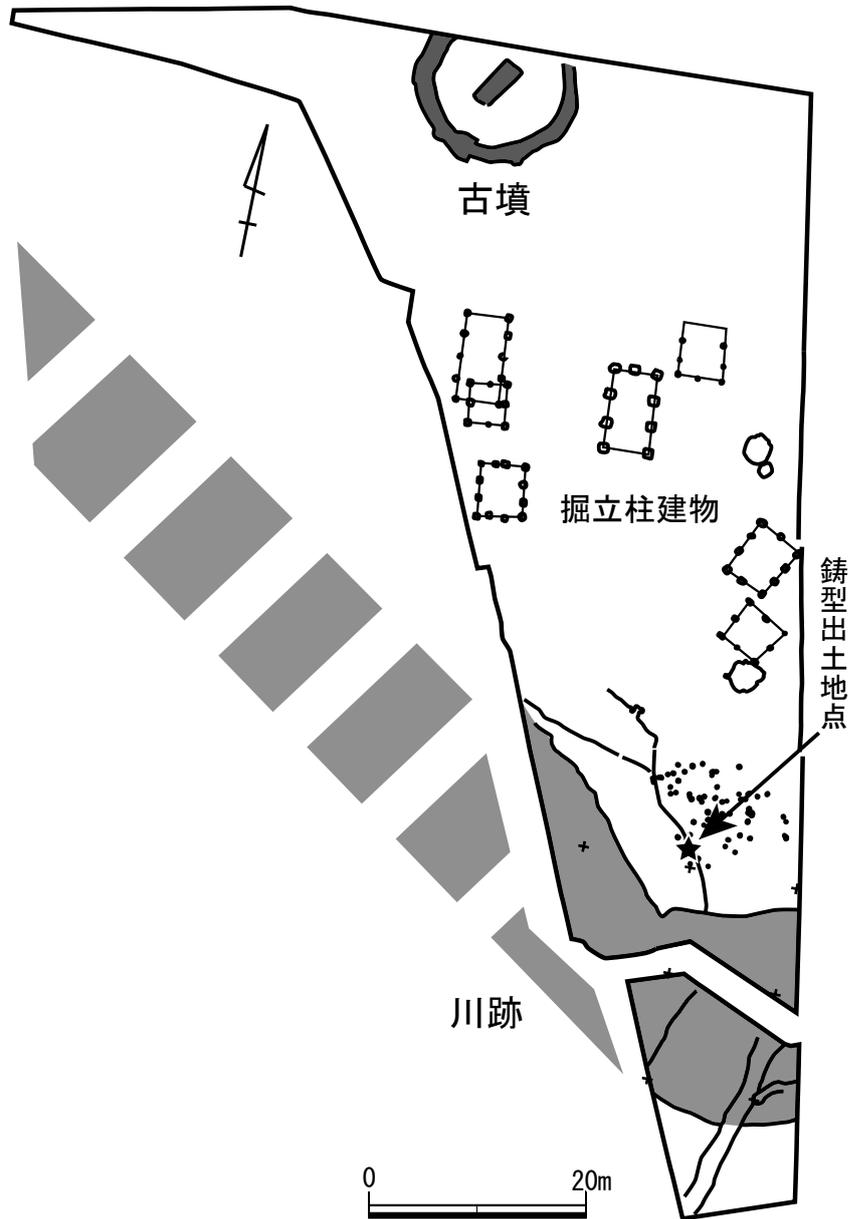


図2 調査区の主要遺構分布図

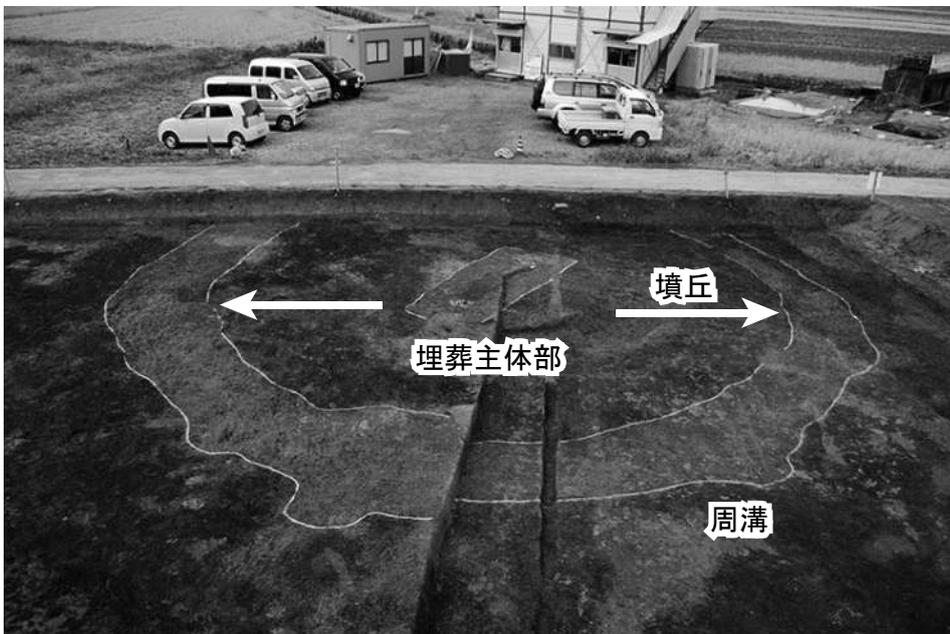


写真1  
古墳検出状況（南から）

## 埋葬主体部の概要

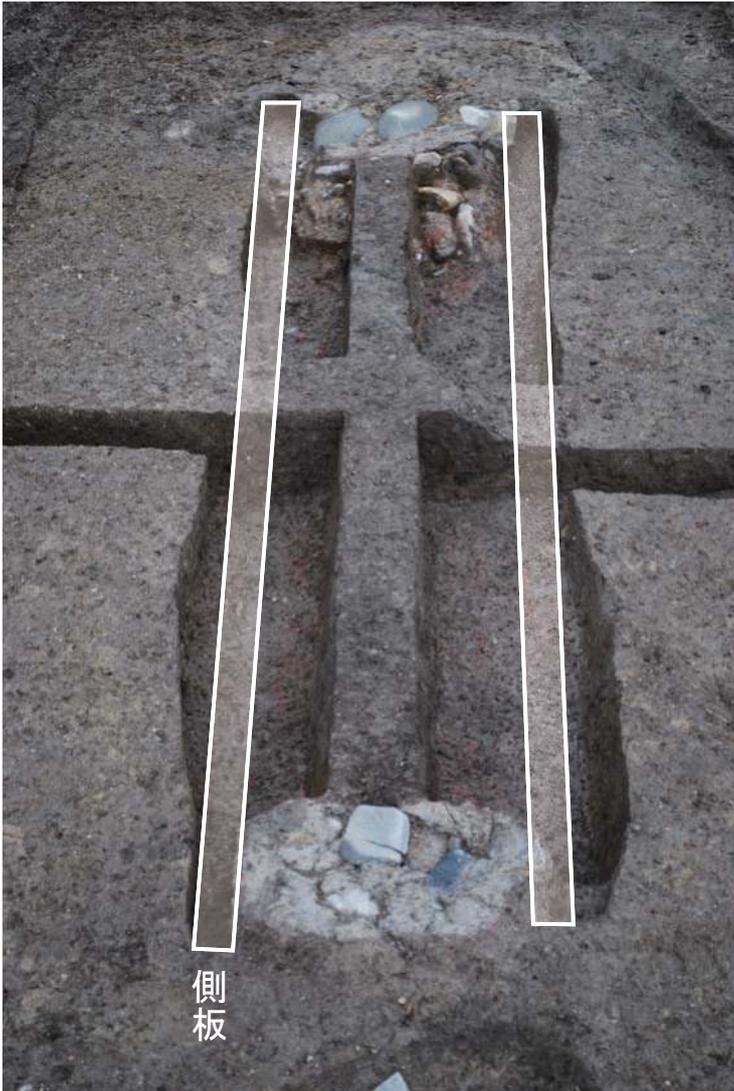


写真2 木棺（南から）

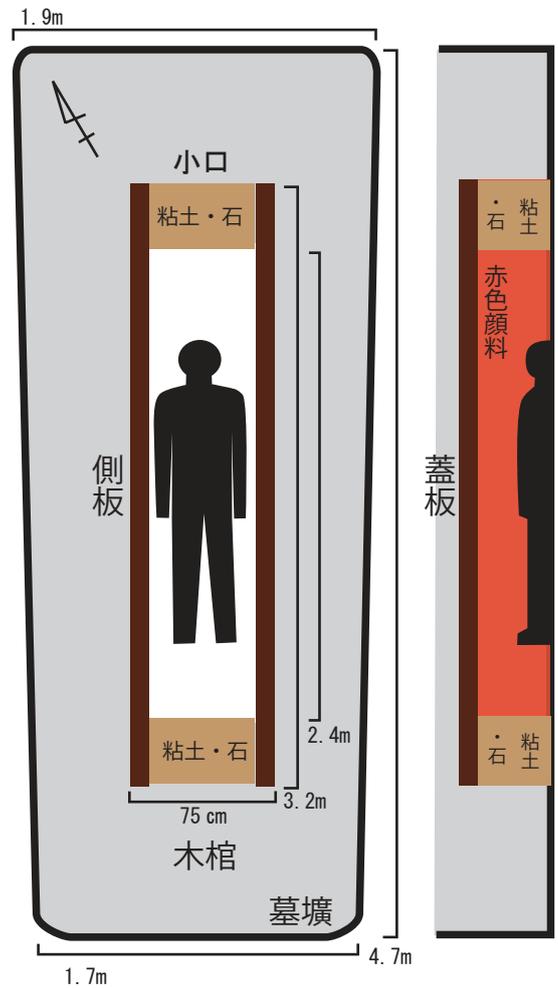


図3 埋葬主体部模式図

埋葬主体部は、木棺直葬（もっかんじきそう）と呼ばれる、木棺を墓壇に直接納めたものです。墓壇は、南北4.7m、東西1.7(南端)～1.9m(北端)、深さ22cmの規模があります。

木棺は腐ってなくなりましたが、土層の違いから痕跡を確認でき、長さ3.2m(棺内2.4m)、幅75cmで、棺材の厚さは10cm程度であったと考えられます。

木棺両端の小口には、石を混ぜ込んだ白色粘土が置かれていました。この粘土によって木棺の両端を閉じ、棺を作っています。

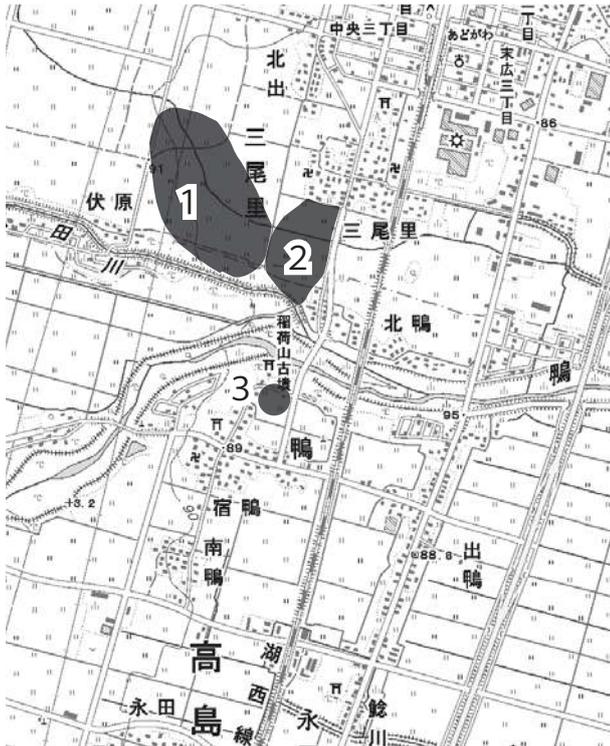
棺内の底面には、赤色顔料が全体に認められます。側板や蓋板の内面は、真っ赤に塗られていたことがわかります。

人骨は残っていませんが、棺内からはガラス小玉2点が出土しました。調査の進展により点数が増えるとみられ、ガラス小玉を連ねた装身具であったと考えられます。



写真3 木棺北側小口の粘土と石

## 調査成果からわかったこと



1. 上御殿遺跡
2. 天神畑遺跡
3. 鴨稻荷山古墳

図4 上御殿遺跡の位置と周辺の遺跡

古墳時代後期の古墳は、上御殿遺跡では初めて見つかった遺構で、平野部に古墳が造られていたことがわかりました。

調査成果で特に注目される点は、小口部分に石と粘土を置く、日本海側地域に分布する木棺と同じ特徴が見られることです。周辺地域では、5世紀後半～6世紀末にあたる京都府北部の古墳で確認されています。

高島市内では、今津町にある13基の古墳で木棺直葬の主体部が見つかっており、そのうちの3基で同じ特徴を持った木棺が使われています。今回の発見により、高島平野の南部にも6世紀中頃に同様の古墳が築かれ、日本海側地域との交流を示す木棺が分布することがわかりました。

遺跡の南側にある鴨稻荷山古墳(前方後円墳・6世紀前半)は地域を代表する首長墓です。被葬者は副葬品の特徴から日本海側地域と密接な交流を持っていたと考えられています。今回の調査成果は、このような交流が他の有力者にも広がっていたことを示す成果として注目されます。

## その他の調査成果



写真4 掘立柱建物



写真5

川跡から出土した奈良時代から平安時代の木製品